

平成14年度 第2回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成14年10月7日(月)
午前10時～午前11時45分
- 2 開催場所 14D会議室
- 3 出席委員 15名
小林委員長, 藤野副委員長, 齋藤副委員長, 小林委員, 桜井委員,
大房委員, 橋本委員, 四宮委員, 三村委員, 鶴見委員, 石原委員,
福田委員, 真壁委員, 今井委員, 中山委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議事
 - (1) 平成14年度関東甲信越静社会教育研究大会について
 - (2) 子どものホームステイ体験事業の実施状況について
 - (3) 平成14年度「宇都宮市青少年健全育成推進大会」について
 - (4) 新たな宇都宮市生涯学習情報提供システムについて
 - (5) その他

7 発言の要旨

四宮委員

議事(1)「平成14年度関東甲信越静社会教育研究大会」について

大会では, 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター長の結城光夫氏の基調講演がありました。21世紀は変化が激しく先が見えない。こうした中で子どもたちには「生きる力」が必要であるといったことや, 効率化が家庭の中にも及んできて, 子どもの体験活動を阻害していること, また, 公民館等の事業自体にハラハラドキドキする体験がなく魅力がないこと。農業体験など実践できる体験を総合的に実践していく必要があることなどが内容でした。

また, NHKのプロジェクトXを担当した国井雅比古氏の講演は, リーダーの条件や机上の論理では新しい発見ができず, 現場主義が大切なこと, 崩壊しつつある地域社会の再構築が課題であるといった内容でした。

分科会は、家庭教育分科会に参加しましたが、浜松市長がすべての教員にアンケートをしたところ、85パーセントが地域でボランティアとして活動したいと回答している例や、河口湖町の最初は行政主導でよいが、その後は民主導型で事業を進めているといった例が紹介されました。

議事(2)「こどものホームステイ体験事業の実施状況」について

- 石原委員 家族の人数が少なくなっている中でよい事業と思いますが、緑が丘の参加児童が1名だったことの原因、要因をよく詰めておかないと今後進めていく上で支障になるのではないかと思います。
- 事務局 要因はいくつかあります。1つには地域への説明が遅れ、説明が十分にできなかったこと。また、子どもを泊める部屋や布団がないといった住宅の事情もありました。なお、同一地区で子どもを預かることについて、同一地区でない方がよいというご意見もいただいております。
- 齋藤委員 先ほど社会教育研究大会の報告がありましたが、(大会では)社会教育は学校教育にサービスせよということが言われていたのではないかと思います。大会で事業として取上げられたのは、ホームステイや通学合宿などの体験で、子どもの「生きる力」をつける方向に向いています。こういったことを巡って、かつて話し合ったこともない大人たちが一緒に話し合う。また、参加人数が少ないということはその地域を表している面もありますが、徐々にうちの地域でもやろうという雰囲気醸成されることが大切なのだと思います。
- 中山委員 行政は年度の区切りで仕事をしているから始まりがどうしても遅くなってしまいます。ホームステイを来年も確実に実施するなら、早い時期に学校に伝えるべきで、学校の先生方も地域に出ているしやらないのも問題ですが、来年はもう少し早く通知をすべきです。生涯学習課は頼まれる側のことも配慮すべきです。
- 四宮委員 民泊をしなければならないというのではなく、方法・やり方は地域に任せるとすることが大切ではないでしょうか。これからは地域が独自に企画できなければならないと思います。
- 小林委員長 受け入れ家庭は大変なご苦勞をされておりました。早目に通知していただきたいと思います。また、この事業が学校教育の中でどういう位置付けにあるのか、子どもたちが独自に参加者を募るとか、来年はもっと成功するようお願いしたいと思います。

議事(3)「平成14年度宇都宮市青少年健全育成推進大会」について

- 小林委員長
事務局 成果発表会に出場してくれる団体にはもう声かけをしているのですか。
声かけを始めたところで、合気道の型や高校生のロックバンドなども考えているところです。
- 小林委員長
事務局 そうすると参加団体は10団体を超えると考えていいですか。
そのとおりです。
- 真壁委員 「たくましい宮っ子」なら今後は武道場も使って武道のような身体を動かすものも入れてはどうでしょう。事前に実施の期日が決まっていれば、調整会議で武道場も押えられるはずです。
- 事務局 今後考えて参ります。
- 福田委員
事務局 成果発表会の出場者の公募はしないのですか。
子ども情報センターの機関紙「子どもックル」で募集しましたが、応募はありませんでした。
- 福田委員 中学校の文化祭などでも、バンドなど小さなグループ活動が結構なされています。そういったグループの参加もよいのではないのでしょうか。
- 今井委員 催し物やお祭りのようなものが非常に盛んに行われてきています。私の地区では400戸程度の組織で大変よく回っています。しかしこれが1,000戸だとまとまりがなくなってしまう。この大会は市全体の催し物としては、内容が400戸単位でまとまる内容のような印象を受けるのですが。
- 鶴見委員 単に子どもに関わっている関係者を集めるのではなく、自治会長や婦人会とかの立場で子どもに関わっている人たちの交流が必要ではないでしょうか。地域ぐるみで子育てを考えるとということでは、自治会長や婦人会などを入れることを検討すべきと思います。
- 事務局 シンポジウムのコーディネーターとして落語家の金原亭馬生師匠を、シンポジストとして、大学教授、地域で活躍されている方、家庭などから講師を選びたいと考えております。なお、模擬店については業者委託を考えております。
- 四宮委員 むずかしいイベントにしてしまったという印象を受けます。上(副競技場)と下(主競技場)とで、性格が違います。下のイベントには親子で来て楽しめるでしょうが、上のほうには人を呼ぶのは大変ではないのでしょうか。
- 小林委員長
齋藤委員 私もそう思います。今年はもう仕方ないでしょうけど。
上がないと大人は行きません。大人だけを集めるとセレモニーだけになりがちです。今後も続けるのであれば、バラエティーに富んだ企画をしながら、またいろいろなご意見をききながら、いろいろ取り混ぜて百貨店方式にやるのもよいと思います。

議事(4)「新たな宇都宮市生涯学習情報提供システム」について

- 三村委員 マナビス情報のインターネット化は非常にいいことだと思います。現在、中学校2年生が社会体験学習を行っておりますが、受け入れ企業がなかなか見つからない状況です。ですから、そういった情報も載せられればと思います。たくさんの情報の中から生徒が自ら選んで体験することが大切だと思います。J Cの情報などもどんどんインターネットに載せてほしいと思います。
- 事務局 現在の学習情報には、体験学習の受け入れ企業は載せてはありません。情報のリンクについては今後体験学習を主管している学校教育課と詰めて参りたいと思います。

議事(5)「その他」について

- 桜井委員 土曜日に運動会があるとその振替が平日になって、毎週土曜日が休みになったうえに平日が休みになります。学力低下もいわれている中で、地域の事業や総合的な学習の時間などについては、振替をしないということはできないでしょうか。
- 齋藤委員 日本の力がなくなって、本来教育が頑張って国づくりをしなければならぬ時に、「休め、休め」と言ってくる。世の中の動きと国の対応が逆行しているように思います。社会教育もその辺を考えていく必要があります。
- 小林委員 特に小学校では土曜日に運動会を実施するところが多いと思いますが、それは保護者の意見が大きく、学校はそれに応えているのです。教員は教育公務員であり、土曜日に出たとすれば、その週のうちに休みを与えなければいけません。市の職員も振替休日をとられると思いますが、今の制度の中ではそうしなければならないのです。
- また、基礎・基本がしっかりしていないと総合的な学習も効果がありません。総合的な学習を進める上で例えば算数や国語の基礎が必要になります。学校はそうした基礎・基本を徹底しているつもりです。チームティーチングとか習熟度別学級もあります。自分で考え生きていく人間をつくらなければいけません。国で決めたことはやっていきたいと思います。なお、いくつかを除き、先進国ではほぼ土曜日を休みにしています。
- 中山委員 家庭での教育を、しっかり親たちがしないことが問題だと思います。両親がどう育てるか、親がどう考えているかではないでしょうか。
- 鶴見委員 経済の高度成長期に育った人たちが親となっています。最近日本のよい習慣が途切れてしまっているように思います。「3歳児と親のふれあいスクール」や「わくわく広場」では、遊びの中で子どもたちが順番を待つ体験や輪

に入って遊ぶ体験をさせておりますが、こういった体験が大切だと思います。幸い宇都宮市にはそういった事業が以前からありました。よいものは長く続けて定着させていくことが必要だと思います。

齋藤委員

最近宇都宮発の犯罪をテレビでよく見ます。また、驚いたことに「産み損」という言葉があるそうです。子どもを産んだために生ずる損害、失敗という意味だそうですが、もともと日本語にはない言葉です。人間関係や親子の情愛が見えない、肝心かなめのところが変化しているように思います。社会の動きに対して無防備で、簡単に犯罪に巻き込まれてしまうのだらうと思います。

福田委員

問題行動や逸脱行動がある子どもよりむしろ普通の子、優秀な子の内面にこそ問題があるという話を聴きました。高度成長期に育った親たちの価値観が変わってきています。家庭の教育力が低下する中で、きめ細かな支援をする必要があると思います。隙間を埋める教育が必要です。吹田市では子育て支援の中で、保育に欠ける子どもでなくても、親子で保育園に来るそうです。

四宮委員

子どもを不登校や、問題行動のある子とそうでない子というふうに分けるのはどうでしょうか。行動として表面に出ても出なくとも心の中は基本的にみな同じと思います。これからは自己責任を全うさせるようにしなければならないが、それには大人が倫理に欠けることをしすぎている。場面場面で、どういう生き方をしていくかを子どもたちに見せていく必要があると思います。自分の力でまずいと感じたら戻ってこられる力をつけることが必要だと思います。

真壁委員

会議開催の案内には、平成 15 年度の社会教育の方針などがありますが、それらが後日審議することになったとのことです。そういった中味の変更はいつあったのか伺いたい。変更については、ファックスなどでも連絡ができたはずで、社会教育委員の会議を軽んじてはいないか。今後厳重に注意してほしい。

福田委員

会議資料については、1 日でも 2 日でも構いませんので、事前に資料配布をお願いしたいと思います。

中山委員

文部科学省の生涯にわたる男女共同参画学習促進事業として、市内 4 ヶ所で「本音で語ろうおやこトーク」という催しを行います。親と子でゲームをしながら進めていく内容で、委員の皆さまにもご参加いただき、また学校でも浸透させていただきたいと思います。

事務局

第 1 回の社会教育委員の会議で、中山委員からご指摘のございましたシンボルロードに生涯学習センターの看板がないという件でございますが、総合福祉センターの道路にかかった看板を利用して現在作成中でございます。また、生涯学習センターの名称についてまだ浸透されていないことについてで

すが、市のホームページをリニューアルし、写真や詳しい内容も掲載したものを11月以降掲載する予定でございます。

8 事務局からの連絡事項

- ・次回開催について、平成15年1月頃を予定していること。
- ・全国社会教育研究大会参加のため、10月9日から鶴見委員と丹生生涯学習課長が秋田市へ出張すること。
- ・議題変更の際の連絡、資料の事前配布について今後改善すること。